

「家がいいね」 第76号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2010.9.6

マッチを擦るのは難しい？

お盆のお墓参りの時、線香に火をつける事の最初から娘たちに任せてみて驚いた。マッチの軸が折れたり、火がつかないなど単純な動作が問題なのだ。

替わって同じ手順をして何が違うのかを確かめた。マッチと箱の持ち方が定まらない。さらに、「この二つを対向させる指の動きは大変らしい。箱の摩擦面が剥けているため、有効な所に当てる工夫も必要だ。せつかく着火しても直ぐに蠟燭に移そうとして消えてしまう。赤燐の火がマッチに浸み込ませた蠟に移り、木の部分に燃え移り安定するまで待つ事も覚えてもらわねばならないのだ。

百円ライターでの着火では気が付かなかった事だ。便利さと同時に失った手と指の体験を思った。娘たちはこの先、マッチを擦るような経験を持つてらるだろうか。たとえば携帯メールは便利で速いが、それで省かれる対話の手順は大丈夫だろうか。



祈る（手を合わせること）

自然に手を合わせ祈るしかない場面を、サッカーのワールドカップの試合の中で見た。延長戦も点が入らず、PK戦で勝負を決するしかない時のことである。見守る中、ある



選手のシュートがゴールの枠を叩いたが、ボールは外へと弾かれた。微妙な差、人間の努力を超えた結果と言っしかない。成功を願って祈るように手を合わせ見つめた人は、選手を責めることはしなかった。願う事と祈る事の結果から解き放された、素晴らしい時間と思えた。誰の責任でもない。

藤原新也さんの本に「なにも願わない手を合わせる」というタイトルがある。四国お遍路巡りの時に、執着を内在する祈りに疑念を持つが、無心の祈りを維持することも難しい。ただ祈るしかない時がある事も、改めて考える時代に我々は居る。

在宅患者さんにファイルのお渡し

「在宅療養生活のポイント」を表題として内容をまとめたファイルをお渡しします。皆様がおちついて在宅生活を過ごすために、主治医（遠藤）と、ケアマネジャーは常に連絡をとっています。それは、医療的な環境整備のためでもあり、介護保険を使うケアサービス（ヘルパー・訪問看護・リハビリ・入浴・デイサービス・ショートステイ）を円滑に進めるために必要なことだからです。

普段からの相談の抜粋を「居宅療養管理指導書」に印刷しましたので、御覧の上で、このファイルに保存ください。他に保険証の写しや大事な医療情報を入れておけば、いざの時に役立ちます。

療養生活を充実させるためには、あなたとご家族の細かな指摘をいただく事も大変重要だと思いますので、どうぞ率直な気持ちをお聞かせ下さい。

樹の根が見える人

桜の手入れを大事に思う人が居る。花を咲かせる時だけを愛でるのではなく、先祖から「お礼肥え」の必要を伝えられてきた。お神酒もその意味



で根元に注ぐ。樹木医の老人が語る。「枝が張るその下まで根は来ます。それが本当の土ですよ」「じゃあ、そこに注ぎましょう」「もう少し、先にしてください。もうちょっと来なはれ、とね」人も樹も育つ存在、見えない所が大事と知った。

おしらせ がん患者のサロン 伊勢

毎月第3木曜日（次回9月16日）午後1時半
当クリニックの隣の「縁（えにし）の家」にて

臨時休診 9月15日（水） 10月16日（土）
よろしくご留意ください



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
mail homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<http://www.tcp-ip.or.jp/~takuro>